



何気なく教室の至る所に貼られている、教師の撮影したデジカメ写真。しかし、この写真ひとつひとつが学習者の学習方向性に良くも悪くも潜在的影響を与えていることを教師の多くは意識していない。ましてや、それらの写真から同僚にあなたの実践力を見抜かれているとしたら…。

□□■ 【場面】を切り取る道具 _____ デジタルカメラで撮る _____

写真はその時間のその【場面】を切り取る。いまや一つの学校に何十台と置かれることも珍しくなくなったデジカメが学校内外の膨大な【場面】を記録し、その一部が学習の記録や掲示などに活用されるようになってきた。公開研究会などでどこかの学校を訪問した際、その学校、そのクラスの実態を読みとろうとするとき、いまや情報源として欠かせないのが掲示物や学習ファイルに貼られている「デジカメ写真」なのだ。



□■□ なにを切り取りたいと思ったのか _____ 撮影者(教師)の意図 _____

各クラスの教師がつくる掲示物に貼られている、学習者の写っている写真を見比べていくと、大きく分けて二つの系統があることに気づく。「こっち向いてピース」系と「さりげな」系の二つである。前者は学習の対象と一緒に学んだ仲間がカメラを意識して写真に収まる「記念写真」的なものであり、後者は対象(学習者)が作業か行動を行っている、その【場面】が写されたものである。教師はその【場面】に何らかの価値を感じ、評価したからこそ写真として残し、掲示しているのである。どのような【場面】の写真が多く撮影されているかを見ていくことで、その教師が学習の中でなにを大切にしているのか、垣間見ることができる。



□■ ■ 【場面】が【内省】をうながす _____ 教師の学習環境として _____

その授業をふり返る際、「教科的場面」「スキルの場面」「コミュニケーションの場面」「問題解決的場面」など切り分け、それぞれの場面についてその教師から聞き出すことで、その学習でなにを意識・意図し、学習場面を設定していったか、それがどのように反映されたかを知ることができる。「これが学びの場面だ」という写真を撮ろう、と意識していても撮影できないとしたら、それはその授業に学びの場面がない(埋め込めなかった)のか、あってもそれを読みとることができなかったかのいずれかだったのだ、と極論できる(…のかな?)。



■□□ 「ポケットの中にはいつもデジカメ」のすすめ

意識してデジカメで撮影することを通して①学習の中で常に学びのポイントはどこかを意識するようになり②単元計画時に「学習場面」を意識的に埋め込めるようになり、このことで③他の教師・保護者・学習者自身に学習を端的に説明できるようになる。総合的学習の評価の際にも大活躍。是非お試しのほど。